

『はじめての防衛白書』 防衛省が小学校に直送

各地でひろがる回収の申し入れ



全日本教職員組合
中央執行委員
村田信子

小・中学生を対象にした『はじめての防衛白書2024』。防衛省が、直接学校へ届ける広報活動をしています。どんな問題があるのか、全日本教職員組合(全教)中央執行委員の村田信子さんに寄稿してもらいました。

近隣諸国からも抗議された白書

防衛省は防衛白書を毎年7月頃発行しています。2021年8月16日に防衛省が初めて小・中学生を対象とした『はじめての防衛白書』をホームページで公開した当時、国内や韓国・中国などの国外からも強い抗議が上がりました。『はじめての防衛白書』自体が他国との対立を呼び立てる事態を生んできたのです。



佐世保女性ネットワークのみなさんと一緒に要請(新潟県佐世保支部 7月7日)

7月7日、新潟県佐世保支部は、市内の5女性団体加盟の「佐世保女性ネットワーク」に呼びかけ、『はじめての防衛白書』の活用中止と回収を求め、12人で教育長に申し入れました。対応した学校教育課長は、中国の関係者に対して、自衛隊の街でもあり、災害救助などの活動は書いてあるので、「十分な配慮をして活用を検討するよう」鑑文を出した。

長崎県本部は7月16日、県教育委員会へ要請。「長崎県は伝統的に中国との友好関係を築いてきただけでなく、平和教育や、いのちを守る教育には力をそそいできた。観光客だけでなく日常的に海外の方とも接する機会も多く、子どもたちも同じ教室で学んでいる。軍事による抑止力を正当化する政府の考え方を子どもに押しつけることは許されません」と話して、「来年の配布については検討する」と回答。声を上げ、届け続けることが重要だ。

偏見や対立意識を植え付けかねない

2024年度版の『はじめての防衛白書』も、他国を脅威として強調し、偏見や対立意識を子どもたちに植え付けかねない内容になっています。今や教室には外国にルーツのある子が在籍し、ともに学んでいます。差別のない共生社会を創る主体者を育てる教育に照らしても障壁となる内容と言えます。また「ウ

憲法9条「平和外交」は登場しない

「抑止力」や「敵基地攻撃能力」を積極的に肯定することは、憲法9条の、武力による威嚇と武力行使の放棄をうたった平和主義のクラインはどうして攻められたのか」の解説で「防衛力が足りないから」とか弱い者のいじめを正当化するかのようになり、先制攻撃を受けた側に責任転嫁し、防衛力が拡大に子どもたちの思考を誘導しようとしている。

配布は自治体が判断

全教は7月11日に防衛省要請をおこない、送付の中止とすでに送付した学校から回収することを求めました。しかし、防衛省は、「我が国の将来を担う小中学生にも安全保障環境や自衛隊の活動の理解を深める機会とするため作成した教科書から、学校に配布する書籍は教育委員会に直接依頼し、配布は各自自治体で判断する」という返答があり、直接都道府県教育委員会の了承を得ることを求めました。

新婦人 防衛省要請

7月31日、新婦人も参加の国民大運動実行委員会の防衛省要請行動で、『はじめての防衛白書』には、ウクライナがロシアに攻め込まれた要因を「防衛力不足」と迫られているが、そういう認識か」と、防衛省は「ロシアによる違反の侵略にせよ、ウクライナに責任がある」と弁明した。

ジェンダーリテラシー講座

〈140〉



適切な知識と最適な医療ケアへのアクセスがある状態で、自分の身体や性について健康を守り、自分の人生を自分で決められること。性と生殖に関する健康と権利(SRHR)をセクシユアル・リプロダクティブ・ヘルス／ラインの根幹にある考えです。

すべての人にSRHR/性と生殖に関する健康と権利を！(上)



シンポジウムで、左から4人目筆者(昨年10月)

国連女性差別撤廃委員会(CEDAW)の勧告生かして⑧

公益財団法人ジョイセフ

を提起しました。

■明治時代から1980年代の今も意図しない妊娠をした人が人工妊娠中絶を選択することに罪の意識と、スティグマを与えていること。 ■WHOが2005年、必須医薬品として、手術よりも身体侵襲性の少ない経口中絶薬が日本でも承認されたのは、世界に遅れること約30年後の2023年。使

母体保護法は人工妊娠中絶や自主的な不妊法随胎罪が、1980年代の今も意図しない妊娠をした人が人工妊娠中絶を選択することに罪の意識と、スティグマを与えていること。 ■WHOが2005年、必須医薬品として、手術よりも身体侵襲性の少ない経口中絶薬が日本でも承認されたのは、世界に遅れること約30年後の2023年。使

シニアアドボカシー・オフィサー 草野洋美

母体保護法は人工妊娠中絶や自主的な不妊法随胎罪が、1980年代の今も意図しない妊娠をした人が人工妊娠中絶を選択することに罪の意識と、スティグマを与えていること。 ■WHOが2005年、必須医薬品として、手術よりも身体侵襲性の少ない経口中絶薬が日本でも承認されたのは、世界に遅れること約30年後の2023年。使

母体保護法は人工妊娠中絶や自主的な不妊法随胎罪が、1980年代の今も意図しない妊娠をした人が人工妊娠中絶を選択することに罪の意識と、スティグマを与えていること。 ■WHOが2005年、必須医薬品として、手術よりも身体侵襲性の少ない経口中絶薬が日本でも承認されたのは、世界に遅れること約30年後の2023年。使

ジョイセフ (JOICFP) ホームページ <https://www.joicfp.or.jp/jpn/>

ホットライン

沖繩
みんな100歳超
班会&誕生会
【那覇支部命ごう宝班 神山幸子】7月20日、定例の班会を開きました。

7月生まれの102歳の村山さん(写真左から2人目)とゲストに101歳の方を招いて誕生会。北海道の友人(102歳7月生まれ 新婦人会員)からおいしいカステラが届き、みんなで大いに盛り上がりました。

【須磨支部ぶどう班】1995年から毎年恒例の折り鶴班を開き、新入会員を含め11人の参加でした。

北海道
他団体と
おたる平和展
【小樽支部 高野秀子】新型コロナで開けなかった平和展。5年ぶりに他団体のみなさんと「おたる平和展」を開きました。

【新潟支部さくらんぼ班】折鶴班を再開しました。高松生が描いた絵のパネルを展示し、親子で見たり、折り鶴を折ったり、折り鶴を作ったりしました。『折り鶴リース』の飾りは、平和の波行動の受けました。分りやすく、一連の流れがよく理解でき、説明後展示物を見ることで、さらに理解が深まったように感じました。

【折鶴班】折鶴班は、読者一人20羽折つたなくても、班会でみんなでもとめます。合わせて平和を願うメッセージや平和募金も集め、17人以上の協力やカンパが寄せられました。

千葉
第五福竜丸展示館
見学ツアー
【原本部 藤川真由子】6月27日(きょう)「次世代」平和企画の「第五福竜丸展示館見学ツアー」に3支部4班から15人が参加しました。

【原本部 藤川真由子】6月27日(きょう)「次世代」平和企画の「第五福竜丸展示館見学ツアー」に3支部4班から15人が参加しました。最初に、学芸員からビキニ二事件についての説明を受けました。

【折鶴班】折鶴班は、読者一人20羽折つたなくても、班会でみんなでもとめます。合わせて平和を願うメッセージや平和募金も集め、17人以上の協力やカンパが寄せられました。

東京
産直米おにぎり
楽しむ会
【日の出支部 丸山タマエ】7月14日、会員があつまって、産直米のおにぎりを作って食べる会を開きました。今秋から、千葉県産に変わるので、フサコガネというお米の試食会でした。

担当者が炊いてきたお米を海苔で挟んで、「オニギリ」を各自が作り、おかずを入れました。お米はしっかりとって昨年

【原本部 飯森博子】7月6日、夕方なら少しは涼しくなるかと思いましたが、まだまだ暑い日差しの中、産直部主催でおにぎり作りをしました。お米はしっかりとって昨年

ホットラインの投稿は編集部メールアドレス s-press@shinfujin.gr.jpへ